

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



時代を越えて聖書について多くの研究がなされ、聖書を理解するためのヒントはたくさんある。が、聖書をどのよう

に読むかについては、この世に生かされている私たち一人ひとりに託されている

聖書はもともと奥が深く、聖書の専門家でもない私が、聖書を引用しつづ

かかったようなことを言うべきではないの

だるうとも思っている。時代を越えて聖書について多くの研究がなされ、聖書を理解するための

ヒントはたくさんある。が、聖書をどのよう

に読むかについては、この世に生かされている

私たち一人ひとりに託されている

命の尊厳の原点

いと美しい命として

理事長 稲松 義人

社会福祉法人 小羊学園
 〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
 電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
 E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
 H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
 発行人：稲松 義人
 印刷所：SRS株式会社
 定価：一部30円
2016年7月20日 第398号

小羊学園を支える会 総会のご案内

- ◆趣旨説明
これまで数年間総会が開催されませんでしたことをお詫びします。創立50周年を区切りとして小羊学園を支える会も新たな枠組みで歩みだしたいと願っています。多数ご出席ください。
- ◆開催日
2016年8月20日(土) 10時～
- ◆ところ
支援センターわかぎ 会議室 浜松市浜北区平口5042
- ◆内容
小羊学園を支える会の会員制度について 今後の支える会の活動・次期役員選出
- ◆問合せ
小羊学園法人本部 TEL:053-584-3337 担当:鈴木

社会福祉法人小羊学園 平成29年4月採用 支援員募集

①施設・人員 浜松・静岡地区の各施設 合計約15名

②採用条件 高校卒・短大卒・大学卒により基本給に変動有 資格手当・早出手当・住宅手当等、法人給与規定により支給 公休数・年間110日 福利厚生・退職共済制度あり

③応募方法 法人本部事務局まで お問い合わせください ☎ 053-584-3337

④採用手順 8月末までに申し込み、試験・面接を経て内定します。

詳細はQRコードで 法人HPをご確認ください

つのはえ397号(先月号)訂正とお詫び

- *先月号に以下の誤りがありましたことを、お詫び申し上げますとともに、訂正を報告いたします。
- ◇1ページ目 表題 (誤) 7月20日号 (正) 6月20日号
 - ◇4ページ目 支える会報告 (誤) 4月受付分 567,280円(26件) (正) 5月受付分 61,120円(10件)



創立50周年 小羊の歩み③

「多へのボランティアを支えられ」
 創立から、洗濯物畳みや繕い物、環境整備など、継続して支えて下さる多くの方に感謝です。

編集後記

障害者総合支援法及び児童福祉法の一部改正案が衆議院・参議院を通過し、6月3日に公布された。施行は平成30年4月予定になっている。今回の改正で、小羊学園の法人運営に関わる箇所もいくつかある。特に「高齢障害者の介護保険サービスの円滑な利用」や「障害児のサービス提供体制の計画的な構築」は、喫緊の課題に絡む法改正である。今後の動向も見据えながら、検討していきたいと考えている。

今年の夏は、猛暑を超える酷暑と言われている。熱中症対策を万全にし、体調を崩さぬよう努めましょう。

(F)

小羊学園を支える会

2016年度 寄付金報告
 6月 受付分 346,300円(24件)
 累計 1,384,700円(90件)

小羊学園への寄付金振込み先
 郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
 小羊学園を支える会事務局(鈴木)
 小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337

聖書をもちださなくても、「誰もが何にも代えることのできない存在であり、そこに『命の尊厳』がある」と多くの人がいう。しかし、ハンディキャップをもって

生きる人々を大切に存在として向き合

い、寄り添っているだろうか。自分

にとって掛け替えのない存在にならな

ければ、「命の尊厳」は、観念的なもので

ないだろうか。

重い障がいのある人たちとの出会う

とき、なぜこの人はこのように重い障

が、顔見知りの職員とワンパターンの

会話をしているということなのかも知

れないが、彼女は、私が他の職員とは違

って、何かのときにお祈りをし、讃美歌

歌う人であることと理解しているのだ

。これは、トミ子さんにとつて私には

いない特別な一人だということではな

いだろうか。ある人と向き合うことを

大切に感じるとき、相手にとつても私

が特別な人になり、やがて掛け替え

のない存在になっていく。そこが「命

の尊厳」の出発点ではないだろうか。

地域とのつながり

小羊学園の事業は公的支援（フオーマルサービス）ですが、ともに地域を創造していくためには、家族やボランティアなどインフォーマルな社会資源とのつながりが大切になってきます。今回は、入所施設とのつながりを紹介します。

「三方原スクエア」

統括主任 濱田 裕子

以前、山浦俊治先生の対談映像を見る機会がありました。その中で創立当初、建築関係の作業員の方々と工事期間を通して職員や利用者さんとの距離感が徐々に縮み、様々な協力を頂いたといったエピソードを山浦先生が嬉しそうに話されているお姿を思い出しました。このエピソードは地域の皆さんとのつながりを象徴するような大切な出来事だったのではないかと思います。

今年で創立50周年を迎えた小羊学園ですが、多くのボランティアの方々や地域の方々に支えられてきた50年の歴史であるとも言えられます。創立して間もない頃から複数のボランティア団体の方々が入って頂き、洗濯物たたみやミシン掛けなどのハウス業務、施設周辺の環境整備などを行って頂いており現在に至っています。利用者さんの生活を間

接的ではありませんが力強く、長年に渡り献身的に支え続けて下さっているボランティアさんへの感謝の気持ちは言葉では言い表せない程です。近年では個人でボランティアに参加して下さる方々も増えてきています。近隣にお住いの方で、わざわざご連絡を下さり「何かできる事はありますか？」とおっしゃって下さった方や、地域にある教会関係の繋がりで参加して下さる方もいらっしゃいます。

地域とのつながりという視点に特化すると、利用者さんのデイプログラムの中で近隣地域の方々にピラを配布し資源回収のご協力を頂いています。回収に伺った際には近隣の皆さんにお声を掛けて頂く事もあり、利用者さんが地域の中で活躍できる機会となっています。

更には、聖隷クリストファー中・高等学校や大学とのつながりも挙げられます。特に中・高等学校の授業には「労働作業」というカリキュラムがあり、利用者さんの散歩や活動のお手伝いを通して福祉活動を行うといった内容で、毎日のようにグループの入れ替わりでボランティアに来て下さっています。近年では利用者さんの高齢化に伴う機能低下によつて、手をつなぐ散歩から車いすを押しながらの散歩へと変化してきている場面もありますが、利用者さんとのふれあいを通して様々な事を伝えられる時間となっています。大学においては、昨年度まで喫茶店を定期的に開いて下さった

り、施設での様々な行事にボランティアで参加して下さったりと、学生さんからの積極的な働きかけの中で交流が続いています。

その他では、創立当初から毎年、近隣地区の製菓店さんから大きなクリスマスケーキを頂き、利用者さんの一年を締めくくる年末の大きなお楽しみとなっております。また、地域からの支えは近隣だけではなく、県内外からも野菜や果物、お菓子やお茶など、様々な物資の支援を頂いています。

今回この原稿を作成するにあたり、退職された職員さんから様々なお話を伺う事ができ、知らなかつた多くの大切な事を教えて頂きました。その中の一言に、「創設当初から現在まで、支えて下さる全ての方々は、小羊学園にとつての宝物なんだよ。」という言葉がありました。小羊学園は本当に多くの宝物を持っている豊かな施設なんだと、改めて感じた瞬間でした。



でんでん虫男性陣の皆さん



さをりワークショップの様子

【つばさ静岡】

生活支援員 大川 武司

つばさ静岡では、園内を散歩する利用者ごと家族の姿がよく見かけられます。自動販売機で缶コーヒーを買ったり、ゾーン間を行ったり来たりしながら立ち話をしたり、2階のラウンジでくつろいだりといった光景は、職員にとつては既に見慣れたものです。しかし案外こうした当たり前の光景が、利用者にとつていちはんかけがえのないものなのかもしれません。

ご家族の他にも地域のボランティアの方がたくさん来園されます。ボランティアと一言でいっても、定期的に個人的に来られる方や、学校や企業等の団体などさまざまです。まず個人で来られる方

ですが、一緒にゲームをしたり、午後のティータイムをゆったりとすごしたり、中庭を散歩したりなど利用者の日々の生活に寄り添っていたりしております。これらは何気ない関わりではありませんが、利用者の表情が職員に見せるのとは違つていたりして、つくづく貴重な時間なのだと感じます。毎年春には、日本基督教団静岡草深教会の方々が、籠いっばいのイースターエッグを持って来園されます。教会の方々は、居室をまわり利用者一人ひとりにイースターエッグを手渡しして下さいます。教会の方々に声を掛けられ、たまごを受け取った時の利用者の少し驚いた表情、笑顔いっばいの表情、様々な表情に出会う中で、施設内にいつもと違った優しく温かな新しい風が入ってくるのを感じています。

団体で来園される方々もたくさんいらっしゃいます。静岡英和女学院中学校・高等学校の皆さんにはホールでの合唱を行っていただいております。合唱も素晴らしいのですが、利用者の居室とホールの行き来を学生さんと同行していただいております。これが非常にありがたいです。利用者の生活を身近に感じていただくよい機会にもなりますし、学生さんが利用者の生活領域に入ることで、つばさ全体にばつと花が咲いたようになるのを利用者は確実に感じていると思います。また家族の会をはじめ、静岡銀行の方々にも施設周辺の草取り他、奉仕活動

【支援センターわかぎ】

支援課長 渥美 雅世

支援センターわかぎでは、以前より大切にしてきた活動の一つとして、より多くの地域の方に利用者の活動を知っていただく場としてワークショップを継続し展開してきました。その中で、利用者の個性的な作品を手に取り、興味を示して下さった方が、その個性的な作品を活かし、製品作りのボランティアに来て利用者の方々と交流を楽しんで下さっています。週1回、月1回と来てくださるボランティアの方がいる作業室の雰囲気は、お客様がいるのではなく仲間が増えたような雰囲気となっています。新しい展示場所を提供して下さり、一緒になつて作品作りに携わって下さることで、自分の作ったものが作品になり、展示される喜びを実感できるのか、以前より意欲的に活動に取り組んでいる様子が見られます。

また利用者の楽しみの一つとして、月に一度の料理教室があります。栄養士が計画を立て、浜北区内にある北浜南部協働センターの調理室を借り、自分達で昼食を作りいただきます。栄養士と職員だけでは、作ることに必死なところ、2〜3名の「はまきた食育の会」の方が毎回お手伝いに来てくださり、利用者の手を添え、野菜を切り、自分達で作って食べる喜びを支援して下さっています。このような食育の会の方がボラン

をしていただいております。

他にもフェスタやクリスマス会など、大きな行事の際、多くの方の支援をいただいております。このようにつばさ静岡は、利用者の生活から施設運営全般にいたるまで、多くの方の協力によつて成り立っております。正直、これらの方の協力なしにつばさの日常は成り立ちません。本当にありがとうございます。

今後の課題ですが、ボランティアの受け入れに関する話し合いを昨年から継続して行っております。現在手探りの中、受け入れの体制を整備している段階です。どうやったらボランティアの方が気持ちよく施設に入つて来られるのか、窓口をどういう形にするか等、具体化している最中です。多くの方に、つばさ静岡という存在についてこういうところもあるのだなと知ってもらえたらと考えています。来園お待ちしております。



静岡英和女学院中・高等学校の皆さん